



267

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2025年6月15日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

「スタンディング」で平和訴え続ける大木晴子さん

15日(日)=1、3面

迫る



「スタンディング」で平和を訴え続けたい。かつて「ベトナムに平和を！市民連合（ベ平連）」の仲間とともに新宿西口で「フォークゲリラ」を繰り広げ、「歌姫」と呼ばれた大木晴子さん＝写真＝を取り上げます。

ベトナム戦争が終わるとベ平連も解体され、大木さんはしばらく平和活動に関わっていませんでした。ところが冷戦が終わっても平和は訪れず、各地で戦争は続きます。そんなとき、「ある人物」のひと言がきつ

かけで、大木さんは平和活動を再開します。

でも歌うことはありません。新たに「スタンディング」というスタイルを始めました。自分の主張をプラカードに書いて無言で掲げる。

すると、思いも寄らぬ「気づき」がありました。リンパ腫を患い、体調は思わしくありませんが、国会前などで「スタンディング」を続ける大木さん。彼女を支える思いに迫ります。

論点

職場の「子持ち様」論争 18日(水)=オピニオン面



子育てする職場の同僚を「子持ち様」とやゆして批判する投稿がネット交流サイト（SNS）上で後を絶ちません。批判する側は、子どもの発熱を理由に休んだ人の仕事を肩代わりするなどして、

不公平感を抱いているケースが多くあります。子どもがいる人、いない人がそれぞれに抱える生きづらさを解消するにはどうすればいいのでしょうか。

特集ワイド

「行けたら行く」から考える あいまい語・ぼんやり語 16日(月)=夕刊2面

「行けたら行く」という言い回しがあります。何かに誘われた人が口にする言葉です。それはつまり、行けなかったら行かない、ということでもあります。決して何かを約束したわけではないのに、その場が丸く

収まるフレーズです。こうしたあいまいな言葉、ぼんやりとした言葉は、日本語の中に、いろいろと存在します。日本語学が専門の森山卓郎さん＝写真＝と一緒に、これらの言葉について考えていきます。



「ミャクミャク」の公式グッズ＝大阪市内で2025年5月30日撮影

日本国際博覧会協
注目が集まるのは、
ます。その数字に
数も増えつつあり
や入場券の販売枚
がたち、来場者数
は開幕から2ヵ月
大阪・関西万博

会場の運営費が黒字になるかどうかの鍵を握るからです。入場券は何枚売れば黒字になるのでしょうか？ 客が会場内で飲食したり、グッズを

万博の運営費の収支はどうなっているの？

15日(日)＝総合面

買ったたりしたら、万博協会の利益になるのでしょうか？ お金に注目して、図を使いながら解説します。

竹橋の窓辺から

編集後記



毎日新聞

人生の最終盤をどんな風に過ごすのか。病気を抱えながら一人暮らしを続けてきた義母がこの春亡くなり、私自身はどうなるのだろうとよく考えるようになりました。そんな方にお勧めなのが、毎日新聞社の「6月29日のシンポジウム」です。アトピー・緩和ケアと生きるために、みなさまのご参加をお待ちしています。（斎藤広子）

